

平成29年度第2回 区政モニター会議 会議録（要旨）

平成29年7月27日（木）

（夜の部）午後6時30分～午後8時16分

区役所 別館7階B会議室

- 1 開会
- 2 講師紹介 広報課長
- 3 テーマ
「中央区の生涯学習について」（文化・生涯学習課長）
- 4 意見・質問

意見 ○ 資料を拝見して、区の生涯学習に関するサービスを利用してない人が多いと感じた。私は2年前に中央区に転入してきて、区民カレッジは知っていたが、サークル活動については知らなかった。転入者が生涯学習に関して認知を深める機会があるといいのではないかと思う。

文化・生涯学習課長（以下、課長） ☆ おっしゃるとおり、知っていただかなくては始まりません。今後は若い世代向けに、フェイスブックやツイッターなどでももっと発信できるようにしていきたいと思う。

質問 ○ 区民カレッジのようなものは23区全部でやっているのか。

課長 ☆ 区民カレッジのような市民向け講座は各区でも行われている。中央区の場合、他区よりも協力文化団体・企業が多いため、内容は非常に充実していると思っている。

意見 ○ 利用したことがない人が約64%もいるのは驚きである。区民カレッジやサークル活動などを知るには、やはり区報が一番だと思う。費用面の問題があるのは分かるが、全号を新聞折込みにしてはどうか。

課長 ☆ 周知について、今後頑張っていきたい。

意見 ○ この区政モニターに参加する動機になったのは区民カレッジだった。私は5年前から通っていて、その内容はとても評価している。時事通信社や銀座の画廊と組んだ講座は、普段なら聞けない話を聞けたり、見られないものが見られて、とても気に入っている。

最近の印象では、区民カレッジの講座に申し込んでも抽選で漏れることが少なくなってきたように感じる。講座を受講している人が一巡しているのかもしれない。講座には毎年、同じ内容を繰り返しているようなものもあるので、もう少し内容に新鮮さを持たせることを考えてほしい。また、できるだけ新規の人の受講に努めたほうがいいと思う。

課長 ☆ 常に代謝させていかないと飽きられてしまうので、飽きられないように気

をつけて努めていきたい。

意見 ○ 区には14年住んでいて、プラネタリウムを数回利用した。また新聞折込みの区報は読んでいたので、区民カレッジについては知っていたが、サークル活動は知らなかった。また区民カレッジも、区報に載っている記事が全講座だと思っていたので少し驚いている。冊子があるのも知らなかった。社会教育会館や区役所などに行く機会がなかったので目にする機会がなかった。やはりもう少し周知をしてくれると嬉しい。

課長 ☆ 在住14年の方にも周知されていないことを、こちらとしては反省したい。

意見 ○ 私も働いていた時には、区の生涯学習の講座や施設はあまり利用しなかった。資料で30%以上の方が利用したことがあるというのは、むしろ多いなと思った。

質問 ○ 実際、区民カレッジに通い始めると、とてもいい制度だと感じた。ただ、区民カレッジの費用が安いのは区が会場費などを負担しているからだと思うが、サークル活動に関しては、区はどのような補助をしているのか。

課長 ☆ サークル活動への補助については、社会教育会館の施設利用料の減免措置（7割引き）や、外部講師を呼ぶ場合の費用補助を行っている。

質問 ○ 区民カレッジの利用者の主な年齢層は把握しているのか。

課長 ☆ 平均年齢は大体65歳で、講座によっては57歳というものもある。全体的には40歳代から60歳代後半が多い。

意見 ○ 区の生涯学習やサークル活動を紹介する立派な冊子があることを知らなかった。このような冊子を例えば図書館に目立つ形で置いておくと、もっとOLやビジネスマンにも知られるようになると思う。

課長 ☆ 周知については、本日これまでも指摘されてきて、改めて更なる努力が必要だと痛感した。

意見 ○ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた外国人おもてなし語学ボランティア育成講座に参加したが、実際に外国人に町中で尋ねられると、やはり地元のことを知らないと対応が難しいと感じた。

課長 ☆ 地元のことを知るには、例えばまち歩きツアーなどに参加するのも一つの方法かと思う。

意見 ○ 生涯学習の参加者は、どうしてもリタイア世代が多くなるのだろうが、その世代ばかりでは面白くないので、若い世代が参加できる講座がもっとあればいいと思う。例えば水泳教室は、シニアも若い人も参加し、和気あいあいとやっていて、とてもいい雰囲気だ。

課長 ☆ 若い世代が興味を持つような講座については、時間帯なども考慮に入れて、今後更に検討していきたい。

質問 ○ 区に来てまだ9カ月だが、広報紙に掲載されている講座は、希望講座を受講できない場合もあるが、目一杯利用させていただいている。講座についての希望は区役所に言えばいいのか。

課長 ☆ 社会教育会館の場合、利用は基本的に団体単位となるので、その団体が何か催事をやっている時に行っていただければ、参加方法はわかると思う。文化祭やサークル発表会、体験週間などをやっている。ただ、なかなかぶらっと立ち寄ることがないという問題があるので、周知方法は考えた方がいいと思っている。

意見 ○ 日本橋社会教育会館での文化祭を見に行き、踊りなど、皆さんのレベルの高さに感激した。実際、参加者は長年、その団体に所属されているようで、新規に参加するには敷居が高いなと感じた。

課長 ☆ 決してそんなことはなく、様々な団体が色々な人を募集している。活動は地域によって分かれている。

質問 ○ 区民カレッジにおける優先枠とは何か。

課長 ☆ 講座を募集する際に、区民カレッジ生を優先的に採用する枠のことである。

質問 ○ 申込日は区報で知ればいいのか。

課長 ☆ 8月1日号には後期の申込日が掲載される。また区のホームページにも、区報の発行日（毎月1日、11日、21日）に、区報がそのままの形で掲載されるのでご覧いただきたい。

意見 ○ 私は働いているので、昼間の講座はなかなか受講できない。昼間の講座が多いことも高齢者の参加が多いことになっているのかなと思う。

質問 ○ 区民カレッジを修了したら、何か資格はとれるのか。

課長 ☆ 公的な資格は特にない。受講をきっかけに、その分野を更に深く勉強していくことはあると思う。

意見 ○ 資格取得のためには若い時から勉強した方がいいので、若い人も参加しやすい夕方以降の講座があるといいと思う。

意見 ○ プラネタリウムには行ってみたいが、場所がよくわからない。小さくても区報に地図を載せれば「ここだったら行きやすい」などとなると思う。

意見 ○ 働いていると勤務時間中に電話申し込みをするのは中々難しいので、受講のネット申込があると、もう少し手軽に申し込みが出来ると思う。

課長 ☆ ご意見として承る。

質問 ○ 区の人口が急増している中で、区民カレッジの講座数はどれくらい増えているのか。

課長 ☆ 平成18年、人口が約7万人のときに区民カレッジは開始されたが、そのときは60講座で、現在、人口約15万人で80～90講座となっている。

人口増の影響については、今後、考えていかなければいけない。

意見 ○ 私は以前、区民カレッジで、建築やまちづくりに関する講座の講師をしたことがあり、現在も、その関係の専門家と活動している。私が講師だったとき、座学だけではなく、ワークショップ的に、地域について考えて、何か提案していこうという取り組みを受講生と一緒にやっていた。そうすることで、地域のリーダーとまでは言わないが、地域のことを考える人たちがたくさん出てくると思ったからだ。行政が予算を使ってやるからには、ただ知識を与えるだけではなく、その知識を活用して、地域のために次に何をしたいか、したほうがいいかを考える人材を育てるような講座がもっと必要だと思う。提案型のカリキュラムがほとんどない。

意見 ○ 先ほど、サークル活動に新たに参加するには敷居が高いと感じたという意見があったが、例えば10月1日を新人限定の日として開放すれば、その敷居の高さも克服できるのではないかと思う。

意見 ○ 他の人が話していたことに共通するが、社会教育会館の利用は登録をした団体優先となっている。個人がふらっと行って、講座などに参加したい場合と思っても基本的には利用できない。

課長 ☆ 文化祭など、外に開かれているイベントでないと参加できない。個別に見学したいという場合は、その時に見学することはできると思う。

意見 ○ 社会教育会館の催事の予定表がもっと簡単に手に入ればいい。若い人はネットで簡単に調べられるかもしれないが、高齢者はなかなかできない。もっとアナログ的な広報を充実させていただきたい。

意見 ○ 社会教育会館に、登録団体以外も利用できるオープンキャンパスのような日を設けることも必要だと思う。現状はサークル団体だけが利用を優先されて、個人には門戸開放されていないという感じになって、行政的に不公平だと感じる。

意見 ○ 企業とタイアップして地域性を生かした講座が区の強みになっていると思うが、講座の新規開拓など、新しいものを取り入れていく工夫が必要だと思う。

意見 ○ 講座の修了者による、その講座での経験を語る場を募集開始前に説明会として設ければ、これから申し込もうとする人たちの参考になる。また講座修了者に、その講座の運営にかかわっていただけるようにしたらどうか。

意見 ○ 区民カレッジには関連のホームページやフェイスブックがあるが、あまり活用されていないようなので、もう少し頑張っていたきたい。

意見 ○ 区報の配布については、オートロックのマンションなども増えているので、例えば訪問介護員など、利用者宅に赴く人たちの協力を得て配ってはどうか。

意見 ○ 区への転入手続の際、本日配布の『サークルガイドブック』をはじめ、生

涯学習に関連する資料一式を渡してはどうか。

意見 ○ 『サークルガイドブック』を見ると、各サークルとも大体ホームページをお持ちのようだが、そこに代表者の顔写真や紹介文があると、大体どのようなサークルかわかるので参考になる。ネットでも展開したらどうか。

意見 ○ 区民カレッジの講座は平日開催が多いが、土日開催の講座をもっと増やしてほしい。

意見 ○ 私は関西から中央区にやってきたが、東京の習慣や食を習うため、例えば親子で参加できるおせち料理講座などがあればいいと思った。そのことをきっかけに、地域の皆さんとコミュニケーションも図れると思う。

意見 ○ 実際に区民カレッジの講座に出てみて思ったことは、有料で構わないので、後日録音や録画などで後から聞かせてもらえると助かる。

課長 ☆ それぞれのご意見は大変参考になった。検討したい。

意見 ○ 国をはじめ、今の行政は高齢者を弱者と見て、保護しようという風潮になっている。確かに身体的機能は衰えているかもしれないが、頭を使うことでは高齢者は決して弱者ではない。少なくとも勉強しようという意志がある人はぼけてはいないのだから、若い世代と同様に扱っていい。その観点からすると、区の各講座の内容は、もっと若い世代にターゲットを当ててもいいと思う。区の人口構成を見ても40～50歳代が多いのに、今の講座内容が若い世代向けではないため、区の文化学習施設を利用しない人が約64%になっているのだと思う。

意見 ○ 社会教育会館の稼働率がどの程度かは知らないが、もし低いなら、区内のサークル団体優先だけではなく、隣接区の方にも開放して、稼働率を上げることも検討したらどうか。

質問 ○ サークルガイドブックを見ても入ろうという気にはならなかった。最初の説明は、全体的にサークル団体の数は増えているが、そこに参加する人の数は減っているという理解でいいか。

課長 ☆ そうではなく、団体によっては参加者が少なくなって、集まらないという意味である。

意見 ○ 生涯学習について、区がこれだけの活動をしていることが区民にあまり届いていない。区報の配布方法をはじめ、情報をしっかり区民に届けるように、まずは努めていただきたい。

意見 ○ 区民カレッジの申込み・当選から開講までの期間が長い上に、プロセスが面倒なので、もう少しシンプルにならないか。申込書を郵送するのは面倒なので、できれば電子申請にしてほしい。

意見 ○ 区民カレッジの講座内容はとても楽しいし、おもしろく、よく探せば、夜間や土日の講座もあるので満足している。更にレベルアップするために、企

業や大学と提携し、一般レベルより一步踏み込んだ講座をぜひ作ってほしい。

意見 ○ 講師を評価する機会がほしい。

意見 ○ バックステージツアーのような普通ならなかなか入れないところを見学できる講座をもっと増やしてほしい。

意見 ○ 区民カレッジの実施場所によって受講料に違いがあるが、区民カレッジとして均一の受講料にした方が受けやすいのではないか。また歌舞伎、文楽等の観劇についても、自由に自分で日時を選べない分、観劇料は割安にならないか。

課長 ☆ いただいたご意見は持ち帰って整理したい。

質問 ○ 区民カレッジ生の優先枠について、カレッジ生が優先されるのは不公平だという声は上がっていないか。

課長 ☆ 優先枠については、カレッジ生なら年間2枠、一般申込の方により優先されるというもので、優先的にカレッジ生しか行けないというものではないため、あまり不公平感が出てはいない。広報やパンフレットでも、カレッジ生のメリット、一般申込のデメリットの程度を丁寧に説明し、一般枠で申し込んでも当選しないという誤解が生じないようにしたい。

質問 ○ 区民カレッジでは、1年で卒業する人と3年で卒業する人がいるようだが、その違いは何か。

課長 ☆ 一般の講座は3年コースで、1年間で50単位を取得して進級となる。1年で卒業するのは養成講座の受講生で、養成講座は年ごとに内容が変わるため、そうになっている。

質問 ○ 年間50単位を取得できなかつたら、進級できないこともあるのか。

課長 ☆ それはある。

質問 ○ 地域のパソコン講座で講師をしている人は区民カレッジの卒業生か。

課長 ☆ 違う。区民カレッジなど、文化・生涯学習課で行っている講座はさまざまな機関・団体から講師が派遣されているし、いきいき館で行っている講座の講師は、館の指定管理者が呼んでいる。

質問 ○ カレッジ生をまとめている窓口はどこか。そこに問い合わせれば、自分が今、何単位を取得したかがわかるようになっているのか。カレッジ生でなくても、歌詞の講座などに参加できるのか。

課長 ☆ 窓口は文化・生涯学習課になる。ご自身の取得単位数についても、当課にお問い合わせいただきたい。カレッジ生でなくても受講できる。

意見 ○ 今のようなことは、この場で質問したからわかったことで、その辺のことをもう少し周知していただきたい。

質問 ○ カレッジ生は何人いるか。

課長 ☆ 今時点では約700名、年間延べで講座を受けている人数は大体4,000名ちょっととなる。

意見 ○ サークル活動は敷居が高いと言われるが、区民カレッジで学んだことを卒業後も続けたいというので、サークルを結成すれば、それほど敷居は高くないのではないか。

課長 ☆ そういう例はたくさんある。

意見 ○ 生涯学習については区報にある情報で十分だと思う。私も区報でいろいろと知って、まち歩きなどのイベントに参加している。

質問 ○ 区での生涯学習に関する予算は減少傾向にあるのか。

課長 ☆ 今のところは大丈夫である。人員も増えている。そうならないように進めたい。

質問 ○ 1年間の講座が終わった段階で、受講生による評価は行っているか。

課長 ☆ アンケートを取っている。それを区の内部で分析して、次年度の講座内容の検討に生かしている。また高評価の講座でも、長年続くと飽きられてしまうので、そうならないように気をつけていきたい。

意見 ○ 私も働いていた頃は区民カレッジがあることは知らなかった。仕事を辞めて時間が出来た時、たまたま区報で区民カレッジのことを知ったのが、参加したきっかけだった。実際参加すると、やはり50～70歳代が多く、20歳代は全くいなかった。若くて40歳代かなという感じだった。若い人たちは、仮に夜間や土日に開講してもなかなか参加しないのではないか。

意見 ○ 区民カレッジでは、あまり至れり尽くせりのサポートをしないほうがいい。高齢者は意外と積極的に調査・勉強するものなので、あまりサポートをし過ぎると、好奇心の面では逆効果になる。

意見 ○ 実際、夜間講座には若い人の参加者が多い。やはりテーマと時間帯を選べば、若い人の参加者は増えると思う。

意見 ○ 若い人の参加者が増えれば、高齢者にも刺激になる。

質問 ○ 若い働く人が興味を持つテーマとしてはビジネススキルがあると思うが、今のメニューにはそういうものがない。それはたまたまなのか。

課長 ☆ 現在約90講座を開いていて、文化・生涯学習課の体制としても限界に近くなっている。その中でも講座内容の新陳代謝は各担当で検討していて、ご指摘のビジネススキルに関しても、外国語講座などで新たなメニューを入れ

ていけるようにしたいと考えている。

意見 ○ 語学だけではなくて、その他のビジネススキルもあっていい。

意見 ○ 以前は早稲田大学のエクステンションセンター内の講座にビジネススキルに関するものが結構あったが、最近は見えていないので少し増やしてほしい。

広報課長 ☆ 区報の配布については、まずホームページへのアップは、情報の不公平にならないように区報の発行日に合わせてアップしている。また過去にも、色々と意見をいただいていた、全号全戸配布がいいという意見もある一方、やはり町会配布がいいという意見もあった。また、これだけ大部数になると、例えば2日間で一気に全戸にポスティングしてくれる業者もなかなか見つからない。他区ではシルバー人材センターを活用しているところもあるが、本区ではなかなか難しい。もちろん区の施設には全部、区報を配置しているし、そのほか、一部のコンビニやスーパー、また区内の25駅にも配置している。ただ、紙が散乱したら困るので、1駅当たり30部程度しか置けていない。今後も区報の配布方法については検討していきたい。

意見 ○ 区報の配布については、区民みんなに公平に届けるという基本スタンスを保つためには、やはり毎月1日号の町会配布は維持すべきだと思う。最近は新聞をとらない家庭も多い。

意見 ○ 生涯学習においても町会ともっと連携して、地域の古老や商店主などの話を聞く機会を若い人や転入者向けに設けるのもいいのかなと思う。

意見 ○ 現在、区民カレッジでは18歳以上を対象としているが、これを学齢に達している人とすれば、より多くの世代と一緒に勉強でき、講座にも膨らみや厚みができると思う。

— 了 —